



▲音声を録音する際の様子

内容が、正確に分かりやすく  
伝わるように音訳してます。



音訳サークルやまびこ

### 目の不自由な方が情報を得るための手助けをしたい

音訳サークル「やまびこ」では、この広報つるがなど、広報紙の音訳や対面音訳を通して、視覚障がい者の方たちに、情報を正確に分かりやすく届けることを念頭に活動しています。

現在のメンバーは16人で、サークルとしては30年以上前から活動を続けています。使う機材も様変わりし、昔はカセットテープに録音していましたが、今はパソコンを使って録音や編集をしています。

音訳には、視覚障がいなどで活字の読みが困難な方のための「デイジー」と呼ばれる国際標準規格を使って作成しています。見出しに相当する階層分けや読み方などのチェック・録音・編集・校正を手分けして進めますが、ひとつの発行物の音訳に10日程かかります。

利用者さんとの直接的な接点はあまりありませんが、「聞いたよ。」とか、「分かりやすかった。」という声が一番の励みです。まだまだ利用いただいている方は多くはないので、識字障がいの方や高齢により字が見づらくなつた方も含めて、少しでも多くの方のお役に立てることが私たちの願いです。

音訳物をご希望の方は、ぜひご連絡をお待ちしています。(21頁に連絡先を記載しています。)

## まちの宝を発見！ つるが歴史遺産



案内人  
学芸員 藤田裕介

建物に散りばめられた  
デザインを探して  
みましょう



▲壁面のタイル張り装飾

### 基本情報

種別：登録有形文化財  
(平成26年4月25日)

昭和8年(1933年)竣工  
所在地：蓬萊町



旧敦賀倉庫株式会社新港  
第一号・第二号・第三号倉庫

### シンプルな構造に隠れた芸術性 敦賀港のモダン倉庫

旧敦賀倉庫株式会社新港第一号・第二号・第三号倉庫は、敦賀港第二期修築工事が完了した翌年の昭和8年(1933年)に建設された倉庫です。

外観は、桁行約50.5m、梁間約19.4mの東西に長い平面形ですが、内部は壁で、東側から一号、二号、三号の倉庫に分割されています。昭和期の大型建築に導入されていた鉄筋コンクリート造が採用されており、耐震性・防火性などに優れた設計になっています。

一見、機能性のみを追求したような外観ですが、各所に芸術的な意匠が凝らされています。特に南側正面の3つの入口のスペイン瓦葺の庇や、湾曲した庇を上下に配した7つの窓、東南隅の一段高い塔屋部分の逆L字形に配置された薄茶色のタイル張りのデザインなどがアクセントとなっています。これは当時の社長であった宇野泰三氏の「倉庫のイメージのしない倉庫を造ってほしい」という要望に応えたものでした。

旧敦賀倉庫株式会社新港倉庫は、福井県内で類例があまり見られない近代建築で、松原の鯉蔵、金ヶ崎の赤レンガ倉庫とならんで、敦賀港の変遷を物語る貴重な文化財と言えます。

### 広報担当者の つぶやき

4月に異動があり、8か月あまり。初めての慣れない取材で始まりましたが、いろいろな方の話を聞く機会をいただいたり、普段入ることのできない現場を見せていただいたり、大変貴重な体験をさせていただいています。カメラもまだまだ試行錯誤の日々ですが、場数をこなして、分かりやすく伝えられるよう努力していきたいと思っています。(K)

今年も残すところあとわずか。皆さんはどのような1年を過ごされましたか。2、3頁では「2020年の出来事」として、写真とともに1年を振り返っています。写真を見返すと、この時こう撮ればよかったという反省や、取材でお話を伺った時の思い出などがよみがえってきました。皆さんも1年を振り返るために、ご自身の写真を見返してみてもいいのでは？(M)